

葛城三千子

後世に残したい桜たち

そして一本桜



林屋晴三

西行法師が愛し、藤原定家が詠み、芭蕉が句にした桜は、いつしか群生してしまったソメイヨシノの陰となって、一部の識者以外に話題にされることなく、各地でひっそりと静かに咲きつづけていた——それらを一本一本訪ね、滅びゆく桜たちの記録を残したいと切望したのがこの本となった。

右文書院

南から北へ一本桜の旅！

そして一本桜

後世に残したい桜たち

katsuragi michiko
葛城三千子



「ソメイヨシノ」は幕末に造られたクローン新種であり、古くから歌に詠じ、愛玩されてきた桜ではなかつた！



さくら
「桜」

西行法師が愛し、藤原定家が詠み、芭蕉が句にした桜は、各地でひっそり静かに咲き続けているが、いつしか群生してしまった「ソメイヨシノ」の陰となり、一部の識者以外話題にされることなく、かなり衰弱していることを耳にした著者は・・・



～好評発売中～
日本の料亭紀行
定価：本体 3,800 円+税
* ISBN 978-4-8421-0743-1 C0076

そして一本桜

【仕様】四六判並製カバー装
・400 ページ（オールカラー）
定価：本体 2,700 円+税
* ISBN 978-4-8421-0778-3 C0076

注文書 4月6日発売

そして一本桜

後世に残したい桜たち

葛城三千子〔著〕

定価：本体 2,700 円+税

お近くの書店までお持ちください◎ご注文冊数 冊

番線印	お名前
	ご住所〒
ご担当者	様
	電話
右文書院	〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台1-5-6 電話：03-3292-0460 fax：03-3292-0424

いい仕事

東京国立博物館名譽館員 林屋晴三

●本書の内容

—滅びゆく桜の記録—

葛城さんとは長い交友になった。彼女が古唐津茶碗の奥高麗と呼ばれているものに興をもち、その由来を探求すべく私の意見を求めてきたのが最初で、いつしか三十年以上になろうか。このたびはさらに彼女の探求心は深まって、全国に散在する一本桜を訪ね歩き写真と紀行文を本にすることになり、またまた私に拙文を寄せよとの仰せだ。沖縄から北海道まで、全国の古い桜を一本、一本訪ね歩いた記録である。私も桜の古木が好きで、いすれ訪ね歩きたいと思っていたのだが、何事にも粘り強く、極めて行動力の旺盛な葛城さんに先を越されてしまった。

もはや何をか言わん、その志の高さと真摯な情熱に深く敬意を表するしかない。きっと、春には桜前線のニュースが日本中を駆けめぐり、九州から北海道まで、花がいつ咲くかのニュースが国営放送で流される国は、日本において世界のどこにもないらしい。彼女の願いは、多くの滅ぼんとする桜の「いのち」をお知らせし、そしてできれば訪ねて見てほしいとのことである。

日本五大桜 *大正十一年十月十二日天然記念物に指定されたもの

三春の滝桜

樹齢一〇〇〇年
紅枝垂れ桜

福島県田村郡三春
町大字滝字桜久保
二九六 ← ←

山高神代桜

樹齢一〇〇〇年
エドヒガンザクラ

山梨県北杜市武川
町山高
実相寺境内 ← ←

狩宿の下馬桜

樹齢八〇〇年
日本最古級
ヤマザクラ

静岡県富士宮市
狩宿(井出館)

石戸の蒲桜

樹齢八〇〇年
日本最古級
カバザクラ

埼玉県北本市石戸
宿三丁目一九

根尾谷の淡墨桜

樹齢一五〇〇年
エドヒガンザクラ

岐阜県本巣市
根尾板所字上段
九九五 ← ←

著者葛城三千子は、三十代後半にさくら旅を始めて今まで丸三十年、走行距離にして六十万キロにも及ぶ——文字通りのさくら行脚です。ある意味で日本の歴史そのものの生き証人として、樹齢何百年はおろか、ときには千年を超すこれらの古木を支えてきてくれた地元の人々に対し、著者が深い畏敬の念をこめて書き残そうとしたさくら紀行です。今日の日本には滅びゆくものがたくさんある中で、「桜」と言えば山桜であり、彼岸桜であり、枝垂れ桜だったのがいつしか幕末にクローンによって作り出された新種「ソメイヨシノ」の群生ばかり話題になってしましました。しかも多くが昭和天皇の即位の時や、戦後すぐ復興のシボルとして植樹されたもので、寿命が短く50年くらい)また、種を作れないため、自分で子孫を残すことができないサクラなのです。都会のサクラは戦争で焼かれてしまったが、戦火とは無縁の静かな里にはたくさんの本物の「桜」がありますが、近年になってかなり衰弱しかつていています。日本全国にわたって、特に代表的な「桜」を選んで、ここにカラー写真とともに集めたものです。